

拝啓 今年も早や3月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。エンカウンターが届くころには、桜が満開になっていることでしょうか。近所の公園では、こぶし、木蓮が咲いたとあっていましたら、もう花が散ってしまいました。こぶしや桜の開花時期が、1-2週間早まっているように感じます。地球温暖化のせいでしょうか。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第13回です。佐生さんは、丹念に聖書の中に称名が出ている箇所を探してくださり、今回は、新約聖書の中に、称名の流れの箇所を探して、記してくださいました。それによると、最初は、ペテロが説教の中で、ヨエル書を引いて、「主の御名を呼び求める者は、すべて救われる」ことを、強調しました。

パウロが、ダマスコ場で、回心の経験をした時、アナニヤが、「立ち上がりなさい、その方の名を唱え、洗礼を受けて、罪を洗い清めなさい」と言われたとあります。そのような称名の経験を経て、パウロは、ロマ書10章において、「主の御名を呼び求める者はすべて救われる」と、結論したと言えると思います。

佐生さんは、旧約聖書、新約聖書を丹念に読まれ、称名の箇所を探し出し、論文にまとめ、残して下さいましたが、貴重な論文だと思います。また、聖書の研究という内村鑑三先生以来の聖書の勉強の流れが受け継がれていることを思い、うれしく思いました。

『エンカウンター』を始めた由来は、前にも書いたことがありますが、ビリー・グラハム先生の『今日のみことば』(いのちのことば社)という日めくりの霊想書を読んで以来、日めくりの霊想書には、その著者のエッセンスが詰まっていることを発見し、そのような本を次々と読みました。このため、エンカウンターを始めた時、読んで感銘を受けた霊想書のエッセンスを主に紹介することにしました。今でも、毎朝10冊以上の霊想書のその日のページを読んでいます。目下、毎日必ず読むことにしているのは、第1は、小西先生の『主の御名を呼ぶ』(私家版)、新渡戸稲造先生の『一日一言』(新渡戸基金)、松下幸之助さんの『続道をひらく』(PHP研究所)です。その次にできるだけ読むことにしているのは、内村鑑三先生の『続一日一生』(教文館)、ウィリアム・バークレイ先生の『一日一章』(ヨルダン社)、カウマン夫人の『山頂をめざして』(いのちのことば社)等ですが、これらの本のその月読んだ箇所から、感銘を受けたところをこの送り状で紹介することにします。

新渡戸先生の『一日一言』より。

3月22日「西暦1831年の今日、ドイツの文豪ゲーテが世を去った。才能あらゆる方面に卓絶せる彼は、常に、『急ぐなかれ、たゆむなかれ』の主義を守りて、かの大業を残した。成すべきこと、成したき事を数うれば、気のみせわしく、何より始めんかと迷うばかりにして、その揚げ句は何もせずに一生を終わるのみ。終生の業は、その日その日の義務を完了するよりほかにない。」

内村鑑三先生『続一日一生』より。

3月16日「信仰は単純なるを要す。単純ならざれば明瞭ならず。また単純ならざれば熱

心なること能わず。…法然上人によりて仏教が南無阿弥陀仏の6字に簡約せられし時に、日本における仏教の普遍的感化が始まったのである。日蓮上人もまたこのことを解し、彼の信仰を南無妙法蓮華経の7字につづめて、導化の大功を奏したのである。…一言をもって我が信仰をつくし得るに至るまでは、我は我がうちにおいて平らかなる能わず、また外に向かって明瞭に我が信仰を述ぶることができない。」

カウマン夫人の『山頂をめざして』より。

2月28日「たいまつを持つ人よ、いかがですか。

私はめまいがしてよろよろだ。

前に飛び越えた小山にもつまづき

前に踏み砕いたもつれ草にもはねとばされる。

私の注意力はもう失われている。

たいまつは半ば消えて、

熱くなってきた手を通し

恐ろしい苦痛がやってきた。

私はすべてを忘れ、

たいまつを、ほかの良い走り手に

渡すことだけに心を砕いている。

私達は、点灯夫として暗い道をあちこちに点火して歩くために召されているのである。」

バークレー先生の『1日1章』より。

3月9日、「一つのことに繰り返し努力を注入すれば、一つ一つの努力は大したものではなくとも、ついには大きなことを成し遂げることができる。

大事なものは、小さい、たえずくり返される努力である。

同じことをたえまなくやっていると、ついに驚くべき変化が起きる。」

3月11日(木) 本誌読者の佐藤昭夫さんと二人で、毎年この時期に行く入笠山(1955m)に行ってきました。この日は、素晴らしい快晴の日で入笠山頂上から、八ヶ岳、北アルプスの山々、乗鞍、御嶽、中央アルプスの山々、南アルプスの仙丈、間ノ岳、甲斐駒、そして富士山が、よく見えしました。双眼鏡で昔登った山々を探し、奥穂、北穂、槍、常念、立山、剣、白馬岳などを確認しました。毎年同じ時期に入笠山に昇っているから、こんなに素晴らしい眺望の日にもめぐり会えるのだと思いました。また、私が冬の入笠山を展望の良い山として発見したのは、5年ほど前に、マレーシアからの女子高校生をホームステイで預かったことがあり、彼女が雪を見たことがないというので、正月に、入笠山に連れていったことがありました。その時発見した山で、その子に感謝しました。

ワクチン注射がなかなか進んでいないようですが、マスク、手洗い、うがいなどを励行されまして、お体には十分ご注意下さるよう、お祈り申し上げます。

3月24日

山口周三

エンカウンター読者の各位